

1 学校教育目標	
教育目標……………	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。
中・長期目標……………	単位制の特色を生かして、心身の調和のとれた発達と個性の伸長、学力の向上や進路の実現を図る。保護者や地域との連携を深め、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざす。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>本校は、教育目標に「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」を掲げ、単位制の利点を生かしながら、生徒が明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組み、将来の厳しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力の育成を目標にしている。生徒の授業態度は真面目であり、部活動や学校行事にも熱心に取り組み、節度ある行動や態度をとることができている。一方、おとなしくて積極性に欠ける面も見られる。校内の指導体制は、分掌・年次の連携のもとで、基本的な生活習慣の確立及び学習習慣の定着を目指し、あいさつ運動や身だしなみ指導、週末課題や自習倶楽部での指導等が全校体制で組織的に行われている。また、キャリア教育年間指導計画に基づき進路指導も適切に行われ、生徒の進路意識が高まるとともに、卒業後の進路実現にもつながっている。今年度も引き続き進学クラスを設置し、進学指導を推進する。平成30年度に取り組んだカリキュラム・マネジメント研修モデル事業を通じて、失敗経験からも前向きにチャレンジできる生徒、本年度から始まるコミュニティ・スクールを活用した地域への興味・関心を高める生徒の育成の大切さを、全教職員で認識した。今後とも、全教職員の協働体制により、以下の取組を進めていきたいと考える。</p> <p>①基礎学力の定着を図るとともに、進路目標をしっかりと持ち、夢の実現に向けチャレンジし続ける生徒の育成をめざす。 ②部活動を通して、心・技・体のバランスのとれた、心身ともに健康で自己指導能力を持つ人間を育成するため、全職員共通理解のもとに組織として指導にあたる。 ③地元企業・大学・関係機関等と連携して教育の質の向上を図るとともに、地域貢献活動を通じて地域のよりどころとなる学校づくりをめざす。 ④教職員が自ら絶えず自己研鑽を積むことによって、授業力、さらには人間性を高めるとともに、その土台となる健康の増進をめざす。</p>	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>1 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実 2 部活動の充実 3 コミュニティ・スクールの推進 4 教職員の資質向上と健康増進</p> <p>チャレンジ目標 …… Let's Change! ～自分の力を信じよう～ ・真剣に学習に取り組もう! ・行事に積極的に関わろう!</p> <p>1年次目標 進路意識を持つ 2年次目標 自らの進路を 自らの手で! Let's Think! 3年次目標 自己実現 ～明日へ向かって行動を起こそう～</p>	

4 自己評価					5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等
総務	○図書館利用の活性化	・図書館施設設備や蔵書の充実、「図書だより」やポスター等の掲示物を通して、図書館利用の増大を図る。	4: 図書館の年間のべ利用者数が2,500人以上で、「図書だより」も毎月発行できた。 3: 図書館の年間のべ利用者数が2,000人以上で、「図書だより」も毎月発行できた。 2: 図書館の年間のべ利用者数が1,500人以上で、「図書だより」も毎月発行できた。 1: 図書館の年間のべ利用者数が1,000人を下回り、「図書だより」を毎月発行することができなかった。	4	2月10日時点での図書館の年間のべ利用者数は2601人であり、昨年度同時期よりも500人近く増えている。また、図書だよりを毎月発行し、新着図書紹介や読書啓発を行った。アンケートによると、本校図書館に対して肯定的な回答をした生徒は、一昨年度から昨年度で7.7ポイント、昨年度から今年度で9ポイントそれぞれ増加し、92.6%となっている。一方、子どもの読書習慣について肯定的な回答をした保護者は27.6%にとどまっている。読書習慣を定着させるため、1・2年次を対象に長期休業中に読書感想文や「読書ノート」の課題を出し、それらの提出率は9割を超えている。読書感想文審査においては優良賞に1編、「読書ノート」県審査においては最優秀賞に1編、それぞれ入賞を果たした。「読書ノート」県審査への応募も、昨年度の8人から10人に増え、学校賞にはわずかに届かなかったものの優秀な結果となった。8月には「長南地区合同読書会」を本校図書館で開催し、昨年度よりも多い50名の参加があり、宇部市立図書館長や一般の方の参加もあった。昨年度に続き、読書活動LHRでは、おすすめの本を紹介し合うビブリオバトルをクラス単位で行ったり、読書クラスマッチも年2回開催し、盛り上がりを見せた。その他、図書館で月1回程度イベントを企画しており、そのことも利用者増加につながったと考えられる。	○ 読書は学力での好影響のみならずコミュニケーションを高めることにも繋がる。読書から生徒の意欲的な学習活動が育ちつつある。読書活動やビブリオバトルは、生徒が興味をもって主体的に参加できる取組である。宇部中央高校の特色として継続してほしい。また、学校図書館について、保護者を含む地域の交流拠点となる取組を試みてはどうか。 ○ PTA総会の平日開催は、教員やPTA役員の負担の面から考えると良いと思う。一方で、働く保護者のことを考えると、PTA総会の参加率を高めるには、土・日や平日の19時などに設定する方法もあるのではないかと。 PTA活動が積極的になってきたことは評価できる。特に子どもと触れる機会が減るであろう高校生の時期に多くの保護者が楽しく学校行事に参加できることは大事だと思う。ただ、PTA活動が役員だけのものにならないよう、総会については、PTA活動の意義をきちんと全保護者に浸透できるように、全員参加の総会を目指してほしい。 「PTAだより」はサイズ、文字量が少なくなり、手に取りやすく、カラーで見やすく好評だった。発行時期を早めてもよいと思う。 メール配信に生徒の活動(部活動・ボランティア)の情報が追伸されるとよい。
	○保護者との連携の強化	・PTA活動や学校行事に関する情報を、案内文書やメール配信等を通じて保護者に細かく伝え、PTA総会をはじめとするPTA行事や学校行事への参加率を上げる。	4: PTA総会・年次集会等の出席率が25%以上であり、PTA行事への参加者数も昨年度より大幅に増えた。 3: PTA総会・年次集会等の出席率が20%以上であり、PTA行事への参加者数も昨年度より増えた。 2: PTA総会・年次集会等の出席率が15%以上であり、PTA行事への参加数も昨年度と同程度であった。 1: PTA総会・年次集会等の出席率が15%未満であり、PTA行事への参加者数が昨年度より減少した。	3	PTA総会は例年土曜日に開催していたが、今年度は、諸般の事情により平日開催となり、昨年度28.5%だった出席率が20%と落ち込んだ。保護者アンケートによれば、7割近くが「メール配信は役立っている」と答えており、開催日時については周知していたはずであるが、平日の参加は難しかったと思われる。来年度は、土曜日に総会を開催する予定である。 一方、年度当初に選出されるPTA評議員の活動は昨年度よりも活発になり、5月の評議員会には評議員20人中16人が参加し、明日葉祭等のPTA行事への協力者も増えた。特に文化部会委員は、昨年度までは教員主導で作成していたPTAだよりの企画に積極的に関わり、体育大会や出張講義等の学校行事の際に来校して取材した上で、保護者目線で記事を作成した。来年度もPTA役員を中心として評議員同士の連携を強め、保護者全体のPTA活動への参加を促したい。	

A

教務	○学習習慣の定着	・予習・復習・週末課題に積極的に取り組ませるとともに、繰り返し学習をすることによって、家庭学習の習慣定着・基礎学力の充実を図る。	4:家庭学習の時間が1日平均2時間以上であった。 3:家庭学習の時間が1日平均1時間30分以上であった。 2:家庭学習の時間が1日平均1時間以上であった。 1:家庭学習の時間が1日平均1時間未満であった。 (家庭学習の時間を知らするためにアンケートを実施する)	2	昨年度に引き続き、1学期末と2学期末に全校生徒を対象とした学習時間アンケートを実施した。全体的に1学期末と比べて2学期末の学習時間が少し減少しているようであった。しかしながら、学習時間については個人差が大きく、進路目標が明確な生徒とそうでない生徒の差がはっきり出ているものと思われる。特に3年次生においては、進路先が決定した後も自習室で熱心に勉強に取り組む者が多く、これから受験を控えている生徒にとって良い刺激となっている。今後に向けては、より効果が上がり、かつ教員の負担軽減となるような学習課題を考え、着実に基礎学力を向上させていく必要がある。	○ アンケートの結果が全体的に良いなかで、学習面の定着の評価が良くないのが目立つ。家庭学習時間1時間以上をどのように見るか、全国や県との比較がほしい。 小中高と家庭学習の習慣化に向けて取り組んでおり、宇部中央高校でも、学習時間の確保や学習習慣の定着を図るため、教員により多くの工夫がなされている。しかし、授業の質の向上も大切である。子どもが自ら勉強したい、しなくてはならないと思うこと、思えることが学習時間増加の最も大切な部分である。また、家庭学習の習慣化に向けては、SNSやTVゲームの利用と併せ、家庭の協力も必要である。	B
	○学習指導の充実	・学習指導の充実のために、積極的に教科会議や研修を行う。 ・授業の始めに「めあて(目標)」を示し、授業の最後に学習内容の「振り返り」や「まとめ」をするとともに、アクティブ・ラーニングを取り入れた主体的・協動的な活動を充実させる。	4:学習指導充実のために研修等に学期に1回以上参加した教職員の割合が90%以上であった。 3:学習指導充実のために研修等に学期に1回以上参加した教職員の割合が75%から90%であった。 2:学習指導充実のために研修等に学期に1回以上参加した教職員の割合が50%から75%であった。 1:学習指導充実のために研修等に学期に1回以上参加した教職員の割合が50%に満たなかった。	3	11月に実施した授業公開週間を中心に、相互の授業参観を通して本校の生徒の現状理解や授業技術の向上を図った。特に、生徒に考える力を身に付けさせる「アクティブ・ラーニング」の授業や、視聴覚機器の活用など、学習内容の理解を深める授業が数多く実践されており、授業改善の参考となった。しかしながら、授業準備にかなりの時間が割かれていることも事実であり、超過勤務となることも多い。「働き方改革」の視点からも、今後は業務内容の精選を行うことで、さらなる授業の充実を図っていきたい。	○ アクティブ・ラーニングの授業の一つとして、2年生がリトルティーチャーとして1年生に教えた取組は、2年生の理解を深めるため大変良いと思う。 中高連携とともに、公開授業と研究協議を活発にすると良い。 学習指導を行う際、学習の背景となる生徒を取り巻く環境を十分意識することも大切である。 学習は大切なことであり、評価項目の最初にあると良い。	
生徒指導	○基本的生活習慣の確立及び自己肯定感の育成	・身だしなみ指導と朝の登校指導をおし、生徒の自覚した生活習慣の第一歩としてあいさつの奨励を図る。 ・校歌を大きな声で歌うことで自信と誇りを持たせ、自己肯定感の育成を図る。	4:全教職員の協力により、生活習慣の確立及び自己肯定感の育成が十分に図られた。 3:全教職員の協力により、生活習慣の確立及び自己肯定感の育成が概ね図られた。 2:生活習慣の確立は図られたが、自己肯定感の育成は十分に図られなかった。 1:生活習慣の確立及び自己肯定感の育成が、ほとんど図られなかった。	3	基本的生活習慣の確立及び基本的マナーの育成については、毎月1度の身だしなみ指導や毎朝の登校指導、昼休みの校内巡視、定期的実施している校外巡視や通学列車マナー指導等、全教職員の協力を得て効果的に実施できた。全校集会時に校歌を全員で歌い自信と誇りを持たせる取組を行った。今後も生徒会の取組として、創意・工夫をしていきたい。 アンケート結果において、生徒・保護者共に「基本的生活習慣や社会のルール、マナーなどが身に付いてきている。」の内容に対して9割が肯定的意見であった。今後も、生徒の心身の変容をしっかり把握し、教育相談・SC・養護教諭等との連携を図って指導していきたい。	○ 全教員が協力して挨拶の指導にあたっていると感じる。来校時の生徒の挨拶、明るい笑顔が印象的で、校外での印象も良い。身だしなみ、交通安全(特に自転車)、スマートフォンの安全な使い方等、機会をとらえてよく指導されている。ただ、時代なのか、コンビニエンスストアで飲食する生徒の姿をよく見かける。スマートフォンの使い方については、クラス単位でデジタルデトックスを行い、結果について討論会を開催する方法も考えられる。 校歌を大きな声で歌うようにするためには、生徒が校歌を歌いたくなる、上達したくなるイベントを行う方法が考えられる。 生徒の成長に大きな影響力を及ぼす部活動についての評価項目があるとよい。	B
	○特別活動への主体的参加の推進	・生徒会執行部のリーダーシップを育成し、コミュニティ・スクールの地域貢献の機能を生かした生徒会活動や学校行事への当事者性を促す。	4:生徒会を中心に各行事ともクラス全員の積極的な参加が見られ、活動が活発であった。 3:生徒会を中心に各行事が行われ、多くの生徒は活動に参加した。 2:行事によっては生徒の活動が不十分であった。 1:各行事でクラス及び生徒の活動が積極的ではなかった。	3	生徒会執行部を中心に各種委員会活動の活性化を図ってきた。毎月1回、常設委員会を開催し、月間目標を掲げ、全校生徒への呼びかけも行って来た。今後も生徒の当事者意識・主体性を高めていくために、各種委員会活動を生徒全員に周知徹底を図っていきたい。 学校行事への積極的参加については、アンケート結果でも約9割の良い評価を得ている。生徒の自主的な活動の場面も多く見られ、目標は達成されたと考えている。また、文化祭(明日葉祭)の一般公開では、宇部市にも参加していただき大きな成果があった。	○ 生徒会がよく動いて素晴らしい。これからも毎年、新しい試みやイベント、企画を考えて実施することで、生徒は喜びや企画の楽しさを感じてほしい。 宇部市主催の行事をはじめ、地域の行事に多くの生徒が参加し、地域との連携が図られている。	

進路指導	○進路実現のための学力養成	・希望進路実現に必要な学力養成のため、課外授業実施・学習会実施・自習室開放・自習倶楽部設置等により計画的・系統的な指導を図る。	4: 様々な取組により、生徒全員の進路実現につながった。 3: 様々な取組により、70%以上の生徒の進路実現につながった。 2: 様々な取組により、50%以上の生徒の進路実現につながった。 1: 様々な取組は進路実現につながらなかった。	3 希望した進路に進むことができたという生徒の割合は81.6%であった。 課外授業、学習会、自習室開放等も計画的・系統的に実施した。課外授業は放課後、長期休業中、学習会は長期休業中等(2年次夏季休業中には勉強合宿)に実施し、参加した生徒には好評であった。土曜日の自習室開放も30日実施した。自習倶楽部は、参加者が32名だったが最後まで頑張った生徒は12名であった。 しかし、模試等の結果をみると、進路目標に対して学力不足の生徒も多々おり、今後も学力養成の取組を更に進めていきたい。	○ 生徒は進路選択について教員に親身になって聞いていただき、進路実現に導かれている。こうして進学先、就職先を決めた生徒(目標を決めた生徒)の学習への取組は、目を見張るものがある。 進路意識が高まり相応の進路選択がなされている中で、希望した進路に進むことができた生徒の割合が81.6%になっているのは課題であると感じる。学力的に伸びしろのある生徒がいるので、受験に向けて学力を伸ばす風土や環境を整備してほしい。 ○ 大学教授や先輩方の講話も多く、内容も工夫され、修学旅行とキャリア教育を結び付けている点も評価でき、生徒から非常に良いアンケート結果が得られている。一方、保護者の肯定的な数値は生徒ほど高くない。講話や発表については、保護者にも積極的に参観を勧めてほしい。	B
	○進路意識向上のためのキャリア教育の計画的推進	・「総合的な探究(学習)の時間」・「上級学校見学」等を計画的に実施し、進路に対する意識を高める。	4: アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が80%以上であった。 3: アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が60%以上であった。 2: アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が40%以上であった。 1: アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が40%未満であった。	4 アンケートの肯定的回答が、生徒93.1%、保護者85.8%であった。探究活動の発表や講話等の実施が進路意識を高める要因になっているのではないかと考えられる。また、修学旅行を使ったインターンシップも自己の将来を考える契機となったと思われる。 今後も本校の多様な進路の要望に応えられるよう内容を検討していきたい。また、生徒は学力相応の進路を考える傾向にあり、自己の在り方生き方を踏まえた進路目標を定めるよう指導していきたい。		
保健環境	○心身の健康の保持増進	・担任・校内コーディネーター・養護教諭・スクールカウンセラー等が連携し、心身のケアが必要な生徒の早期発見・早期対応に努めるとともに、全教員が情報を共有できる体制を充実させる。	4: 心身のケアが必要な生徒への連携した機敏な対応とともに、自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が充実していた。 3: 心身のケアが必要な生徒への対応と自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が行われた。 2: 心身のケアが必要な生徒への対応と相談活動や保健指導がやや不十分であった。 1: 心身のケアも相談活動や保健指導もほとんど行われなかった。	3 全ての生徒が元気に安心して学校生活を送れるように、教職員の情報共有体制の充実を図った。ケアが必要な生徒の早期発見のために、1学期に「Fit」を、各学期に「いじめに関するアンケート」「教育相談アンケート」を実施し、その結果を集計分析し、必要に応じてSCを中心に適宜ケース会議を行った。ケアが必要な生徒への早期対応がスムーズに行うことができた。他の学校生活でサポートが必要な生徒に対しても、各学期に全体会議を実施し、教職員で情報を共有して支援を行った。学校評価アンケートでは、心身の健康のケアについて生徒からの肯定的評価は89%であった。	○ 心の問題を抱えた生徒やいじめをいかに早く見つけ、対応するかは、生徒が学校に入ってよかったと思えるポイントである。学校はいじめアンケートやスクールカウンセラーを含めた相談体制により、生徒の内面に寄り添って対応している。心身のケアは教員だけでは負担が大きい。関係機関との連携やスピード感のある対応がほしい。 ○ 校内美化が優秀である。校舎周辺の花壇はよく整備されていて、とても明るい雰囲気になっている。	B
	○学習環境の整備	・清掃活動の徹底とゴミの減量化を促進させながら生徒の環境意識の向上を図る。 ・花壇づくりなど校内美化に努め学習環境を整備する。	4: 清掃活動その他の美化活動が計画どおりに実施され、生徒の環境意識も高まった。 3: 清掃活動その他の美化活動がほぼ計画どおりに実施され、生徒の環境意識もやや高まった。 2: 清掃活動等が不十分で生徒の意識を高めるまでに至らなかった。 1: 計画のみにとどまった。	3 生徒アンケートでは、校内の清掃や美化について肯定的評価を96%得られ、昨年度より5ポイント増加した。外庭においては、担当教員の指導の下、環境委員や掃除当番の生徒が良く活動し、花壇にとっても美しい花を咲かせることができた。校内の清掃活動については、指示されたことはしっかりできるが、自発的に率先できる生徒はまだ少ない。そのため隅々までは掃除が行き届いて無いところもある。環境委員による巡視によって、生徒自らが環境美化活動の必要性に気付くことで、自主性を向上させながら一層校内の美化を図りたい。		

業 務 改 善	学校の組織等				開校記念行事について毎年開催を見直し、来年度以降は生徒に質の高い芸術文化に触れさせるという目的で公演会を3年に1回開催するという方向で検討している。 進路指導課では、1年次の「総合的な探究の時間」の探究活動研究について、生徒の質問を事前に講師の先生にお知らせした上で講義が行われたため、内容の深化が見られた。 保健環境課で「大規模災害等発生時における生徒の保護者への引き渡しマニュアル」を整備するの併せて、4月の地区別集会において新入生が危険個所の確認するとともに、荒天時における通学方法を確認することとした。	○ 開校記念行事について、3年に1回の開催で引き継ぎがスムーズにできるのだろうか。また、プロを呼ばずとも地元や生徒による企画も面白いと思う。 開校記念行事や明日葉祭などの学校行事を、地域の方にもお知らせして交流を深めてほしい。 通学区域が広いので生徒が自分で自分の安全を守るという意識とKYT(危険予測学習)が必要と思う。
	○各分掌の組織的な運営	・分掌会議を計画的に開催することで業務改善を推進し、教育活動の充実を図る。	4:分掌会議を通じて活発・具体的な提言がなされ、教育活動の充実がみられた。 3:分掌会議を通じて活発・具体的な提言がなされ、教育活動の充実がかなり期待できる。 2:分掌会議の活動が中途半端に終わり、教育活動の充実があまり期待できない。 1:分掌会議の活動が十分に行われなかった。	3	企画運営委員会は9回、職員会議は13回計画した。80%程度計画した時間に終了した。また、冬季休業中の企画委員会は議題を整理して中止した。会議時間の短縮に当たって、職員会議後すぐに次回の会議の議題を各分掌等に調査し、会議資料を前日に参加者に配付して事前に目を通す時間を確保することで会議時間の短縮を図った。	○ 会議時間のうちに協議が終わるよう、前日に資料配付が行われ、協議が深化している。
	日常的な業務	・議事の事前調整や整理を行い、企画運営委員会・職員会議等の会議を効率よく運営する。	4:全会議のうち予定どおり又は1時間程度以内に終了した会議が90%以上であった。 3:全会議のうち予定どおり又は1時間程度以内に終了した会議が60%以上であった。 2:全会議のうち予定どおり又は1時間程度以内に終了した会議が30%以上であった。 1:全会議のうち予定どおり又は1時間程度以内に終了した会議が30%未満であった。	3		
○会議の効率的運営				2	教員定数が2名減となったが、時間外業務時間の削減率は平成28年度に比べ17.1%減(4~1月)であった(平成30年度比6.5%減)。部活動の休日は、昨年度までの週1日以上確保から、週のうち土日のいずれか1日に加え平日1日以上確保とした。	○ 働き方改革は単に働く時間を削ればよいということではない。負担の大きい部活動において、短時間で合理的・効果的な内容となるよう、学校は働き方改革の推進に力を入れている。できることから一つずつ改善してほしい。一方、少子化による生徒数の減少に反して、生徒一人ひとりに関わる教員の時間数は増えている。生徒や教員実情に合わせた教員数がほしい。
勤務状況						
○学校における働き方改革の推進	・教職員の時間外業務時間を削減する。	4:時間外業務時間の削減率が平成28年度比30%以上であった。 3:時間外業務時間の削減率が平成28年度比20%以上であった。 2:時間外業務時間の削減率が平成28年度比10%以上であった。 1:時間外業務時間の削減率が平成28年度比10%未満であった。				

A: 取組が優れている B: 取組がよい C: 取組がおおむねよい D: 取組に改善が必要

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

【成果】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の図書委員会による様々な企画(教員も参加)や毎月発行している「図書だより」による企画や新着本の情報等の紹介により、図書館利用者数が増加した。 ○ LHRの「読書指導」において、自分の推薦する本をクラスメートに紹介したり、読書感想文や読書ノートなどの課題で文章を書いたりすることにより、生徒は思考力を高めたり、表現力を磨いたりすることができた。 ○ 週末課題が定着し、生徒の取組も良好である。 ○ アクティブ・ラーニングの取組として良い取組も見られるようになった。 ○ 毎月1度の身だしなみ指導、毎朝の登校指導、通学列車マナー指導等、全教員の協力により効果的に実施できた。 ○ 地域の行事に多くの生徒が参加し、地域との連携が進んだ。 ○ 進学クラスの設定などが進路実績に繋がってきている。生徒の幅広い進路の要望に対して、担任をはじめ多くの教員の丁寧な指導が行われている。 ○ 大学教授や先輩による講話に加え、修学旅行を使ったインターンシップにより、キャリア教育を充実させることができた。 ○ 「いじめに関するアンケート」「教育相談アンケート」等を活用して相談活動を行うとともに、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携し、生徒の内面に寄り添って対応することが概ねできた。 ○ 生徒会美化委員による活動等により花壇がよく整備され、宇部市の花壇コンクールで入賞した。 ○ 明日葉祭、公開授業の案内は保護者だけでなく、自治会を通じて学校周辺にも行った。明日葉祭では効果があった。 ○ 会議資料の前日配付により、会議時間の短縮や新企画の協議の深化を図ることができた。 ○ 働き方改革については、部活動の面で業務時間を短縮することができた。
【課題】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図書館利用の活性化について、生徒が読む本の幅を広げる手立てを講じていく必要がある。 ○ 総会に出席する保護者を増やす。 ○ 学習習慣が定着していない生徒に対してどのように学習への意識を高めていくか、さらに検討する必要がある。 ○ 明日葉祭の一般公開をはじめ、これまで以上に地域との連携を重視した取組が必要である。 ○ 進学クラスは大きな成果を上げたが、どのように運営していくのかなどを協議し、より充実した、きめ細かい指導を継続していく必要がある。今のままではただ進学クラスを作ったというだけになる危険性がある。 ○ 心の問題を抱えた生徒への対応について、関係機関との連携を強化するとともに、スピード感をもって行う必要がある。 ○ 公開授業の校外の参観者が、一部保護者と中学校に限られている。 ○ 部活動の活動日が少なくなったが、合理的・効果的な内容に変えていく必要がある。

7 次年度への改善策

<ul style="list-style-type: none"> ○ 「総合的な探究の時間」での図書館利用の推進を目指し、新聞やキャリア形成の一助となるような本をさらに増やしていき、生徒に活用をアピールしていく。 ○ PTA総会を土曜日に開催する。 ○ 週末課題が形骸化しないように各教科で週末課題の在り方について検討する。 ○ 生徒会活動をはじめ、地域との連携を進めていく。 ○ 部活動の活性化を図り、生徒相互の理解や人間関係づくりの構築を図っていく。 ○ 新しい大学入試制度に向けた進路指導の取組を検討し、進めていく。 ○ 心身のケアが必要な生徒の早期発見・早期対応のため、担任・校内コーディネーター・養護教諭・スクールカウンセラー等の連携を進めるとともに、生徒の成長に合わせて自己管理能力の育成を図る。 ○ 公開授業の参観者が増えるよう、目玉を設定し、広報を工夫する。 ○ 生徒の主体性を高めながら、短時間で合理的・効果的な部活動を目指して運営する。
